



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

2020年
11月30日発行

日本生協連
組合員活動G

No. 4

2020年も残すところ1か月となりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で社会や生活が大きく変化し、復興に関わる活動にも大きな影響を及ぼしています。そんな大変な状況ではありますが、創意工夫しながら復興支援活動に取り組んでいます。被災地の「いま」をぜひ、ご確認ください。



おおつち おばちゃんくらぶ ～ものづくりサロンとお茶っこの会～

全国のみなさまにご協力いただいた「地域・くらし復興応援募金」を財源とした「いわて生協被災地支援活動助成金」を活用して活動している団体の様子を紹介します。

大槌町で活動している「おおつち おばちゃんくらぶ」は、大槌町内のおばちゃん、おじちゃん17名のグループです。東日本大震災後、仮設住宅などで知り合い、手作り作品の販売などに取り組んできました。いわて生協被災地支援活動助成金を活用して、ミシンの購入と「ものづくりとお茶っこの会」に取り組むことにしました。町内の方に参加を呼びかけ、織物、パッチワークなどを楽しみながらお茶を飲んで、語らう場をめざしました。

1回目の2020年2月は「デコパーシュバッグ作り体験サロン」を開催。町内の方20名が集まり、帆布のバッグにデコパーシュつくりを楽しみました。参加した方からは「柄選びが楽しくて、ちょっと派手かなと思ったけど素敵にできました」と喜んでいました。そのあとは、お茶のみをしながらいろいろとお話をしました。

そして、11月に2回目の活動となる「さをり織り・バック製作サロン」を開催しました。大槌町にオープンした「おしゃっち」(町の公民館)の広いホールを借りて開催しました。参加者は高齢者が多く、コロナの心配もあり、10名と少なめの参加でした。色とりどりのさをり織を作りました。

コロナの影響もあり計画通りの活動が難しいですが、助成金を受けたことで材料費やお茶代をまかなうことができます。また、自分たちのみならず町内の方にも楽しんでもらえる場づくりができ、感謝しております。



いわて生協被災地支援活動助成金は、被災地の復興に貢献する活動をしている県内の団体を対象に、1団体30万円上限、総額300万円以内で活動費用を助成しています。これまでにのべ48団体に1,048万円を助成し、復興支援に取り組む団体を支えてきました。20年度実施分はただいま審査中です。



こども保養プロジェクト（コヨット！）週末保養のようす

コヨット！週末保養のようすをご紹介します。今回は11月7日（土）～8日（日）の山形県鶴岡市の湯浜温泉のようすです。

1 日目は山形県鶴岡市にある加茂水族館を見学しました。アシカのショーや魚を手で触る水槽など密になる企画はすべて中止されていましたが、子どもたちは時間を持て余すこともなく時間ギリギリまで見学をしていました。

2 日目は月山高原の農場「ベジパレット」でピザづくりを体験しました。当日は小雨が時折降るあいにくの天気でしたが、生協共立社の2名の職員と一緒に、外に張ったテントでピザをつくりました。ピザの生地を平らに丸く伸ばすことから始め、子どもたちは上手に丸く伸ばします。小麦、トマト、バジル、チーズなど、ピザの素材はすべて地元産です。地元のトウモロコシ飼料で育てられた豚のポークウインナーも焼いていただき、焼きたてのピザとウインナーをおいしくいただきました。

参加者から「今回もとてもリフレッシュする事が出来ました。加茂水族館の見学時間も少し長くなったのでゆっくりと見学しました。雨で少し残念でしたが、また是非参加したいです。」「感染を気にしてどこにも行っていなかったのがとても楽しかったです。水族館楽しかったです。また利用したいです。」「福島の子どものための健康のために、この保養事業が少しでも長く続くことを願います。」といった感想が寄せられました。



コロナ過の中でも 定期的に支援活動を行っています。

コロナ禍で支援活動も試行錯誤・・・でも、今できる事を定期的に行っています。それぞれの復興団地の方々は、いつも開始30分前には会場にいられて茶話会を楽しみにしています。

<葛尾村恵下越団地>

葛尾村の方々が住んでいる恵下越団地では、10月20日に体と頭を動かしてリフレッシュ！！ミニ運動会を開催しました。開会の言葉、選手宣誓 紅白に分かれての競技と本格的です。なぜか紅白のハチマキは頭ではなく首に巻き！！競技はスプーンリレーや仮装ゲーム、パン食い競争と種目も多彩です。パン食い競争にはコープのデニッシュあんぱんを提供しました。みなさん楽しく笑顔で笑って参加されていました。



<双葉町日和田・高倉仮設>

双葉町日和田・高倉仮設談話室で、ユーコープさんより提供いただいたキット「かんたん押絵・和みふくろう」を作りました。

茶話会の他にも月に数回集まり小物作りをしている皆さん。慣れた手つきで、作りながらも話に



夢中です。仮設は来春にはどうなるのか未定とのこと。次の住家も決まっていないようです。2020年9月20日に双葉町に開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」の事、紅葉狩りの話等々・・・ちなみに伝承館には未だに行っていないようでした。

久しぶりに集中して作る時間はとても充実でき「良かったよ」との感想を頂きました。



手作り団体交流会を開催しました

みやぎ生協では、2012年から9年間続けた「とうほくてしごとカタログ『FUCCO (フッコ)』」の取り組みをふりかえる交流会を開催しました。手作り団体7団体(リモート参加3団体)、みやぎ生協理事のあわせて14人が参加しました。これまでの実績を報告共有し、今後の活動へのエールを送る場になりました。そして、2021年1月発行で最終号となる「FUCCO Vol.6」の表紙デザインを参加者の投票で決めました。団体の方々にはFUCCOの名前同様、最終号の表紙デザインにも関わっていただきました。

最後に、参加者にサプライズで「青空応援団」のエールを流し、「今後の活動への力になった」と喜んでいただきました。



～とうほくてしごとカタログ～「FUCCO Vol.6」を発行します!



みなさまに支えられてきた「～とうほくてしごとカタログ～「FUCCO Vol.6」(フッコ)は、2012年11月の発行から通算16冊目となる今号(2021年1月発行)で最終号を迎えることとなりました。継続してご支援いただいた全国の生協をはじめ、多くみなさまに心より感謝申し上げます。冊子カタログの発行は終了いたしますが、コープ東北ネットショップでの取り扱いの他、多くの手作り団体が活動を継続します。引き続き東北に想いをお寄せいただければ幸いです。



親子防災・ワークショップ「ひみつちをつくろう！」を開催

東日本大震災で被害を受けた宮城県内の復旧・復興の状況や、防災・減災を親子で学ぶワークショップを開催しました。コロナ禍のため定員を10組と縮小しましたが、34組と多くのご家族から申し込みがあり、当日は9組25人の親子が参加しました。災害時に身近なもので身を守れるよう、簡易テントの作り方や火おこしなどを体験し、参加された方からは「東日本大震災を知らない子どもたちにとって、防災を考えるいい機会になりました」と感想を寄せられました。



発行

日本生協連 社会・地域活動推進部 組合員活動グループ
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池